

第1章 公開実験授業 ― 1年間のデータ ―

1 授業内容

1.1 授業ガイダンス

全学共通科目 A群「ライフサイクルと教育」

授業ガイダンス

2003年4月14日

1. この授業について

(1) この授業の特徴

この授業は、高等教育研究開発推進センターの提供する、実験的性格を持つ授業です。複数の講師が、「ライフサイクルと教育」という共通のテーマについて、リレー式で数回の授業を担当します。前期は、各講師3回～4回、後期は、一人の講師がすべての授業を担当します。

授業内容は、単独の講師が提供するのをはるかに超えた多様性を持つこととなります。構造化された知識を、単に受動的に受け取ったり暗記したりするのは違い、多様性の中から積極的に自分なりの何かを見つけ出し、自分の問題として考えていく、主体的受講態度が望まれます。

(2) 相互につくりあげる授業

この授業では、教授陣がただ一方的に知識を伝授したり、授業のやり方を決めたりするものではありません。授業に参加するみなさん方にも、授業の在り方を模索し、授業をより良いものにしていくよう、提言してください。すなわち、みなさんたち学生にも授業を作り上げる責任があると心得てください。

授業では、授業の感想・意見・要望などを自由に書き込む「何でも帳」と呼ばれる帳面が、ひとりひとりにあてがわれます。みなさんたちは、毎回の授業の最後に、授業で感じたこと考えたこと等を、そこに書いていきます。教授陣は、何らかの形でそれに応答していきます。このように、この授業では、学生と教授陣との相互の応答関係が生まれるよう意図します。

また、毎回の授業の最後には、授業に関するアンケートをおこないます。これは、みなさんたちが授業をどのように捉えていたかを簡潔に知るためのものです。その結果は授業者に知らされ、あらたに授業を工夫していくためのヒントとして使われます。

学生と教授陣の両者で作り上げていく授業ですので、実際にどのように展開して行くか未知数の部分があります。授業の年間計画は、既に概要が決めてありますが、これは固定的なものでなく、授業の流れによって、改善の可能性に開かれています。

(3) 実験としての授業

この授業は、大学の授業のあり方を模索する、ひとつの実験の場です。したがって、みなさん方には授業に関するアンケートや調査をお願いすることがあります。

また、授業の様子は、授業者の様子と学生の様子を含め数台のビデオカメラに記録され、教室後列には参観者が控えています。このような授業の記録は、授業研究や大学教員の研修のためのデータとして使用されます。学生のみなさんは、そのことを了承しておいてください。ただし、データは、みなさん方の個人情報を公開するような形で扱い方はなされません。

(4) 大学教員の研修としての授業

毎回の授業の終了後には、隣室で、授業の担当者と観察者が、授業検討会を開きます。ここでは、その日の授業を題材として、ディスカッションがなされます。これは、教授陣相互が自分たちとの教育の在り方を改善したり、より良い教材を作っていくことにつながります。

後ろに控えている観察者の何人かは、今年度の授業を担当します。他の観察者も、これまでこの授業を何度か担当してきました。このように、互いの授業を見たり見てもらったりして、教授陣自身が学び合うことを目指しています。

(5) 成果の公表

この授業をもとにした研究成果は、数多くの報告書や出版物によって公表されています。

【一般の書店で入手できるもの】

- 京都大学高等教育教授システム開発センター編
『開かれた大学授業をめざして——京都大学公開実験授業の一年間』玉川大学出版部 平成9年9月
- 京都大学高等教育教授システム開発センター編
『大学授業のフィールドワーク——京都大学公開実験授業』玉川大学出版部 平成13年3月
- 京都大学高等教育教授システム開発センター編
『大学授業研究の構想——過去から未来へ』東信堂 平成14年3月

【附属図書館および各学部図書館で閲覧できるもの】

- 『京都大学高等教育研究』第1号～第8号
- 『京都大学高等教育叢書』第3、4、6、8、10、13、16の各号

2. 授業担当者紹介（担当予定順）

【前期：ライフサイクルと教育A】

- おおやますひろ
大山泰宏 京都大学高等教育研究開発推進センター・助教授
臨床心理学 大学教育評価研究
- まつした かよ
松下佳代 京都大学高等教育研究開発推進センター・助教授
教育方法学 大学教授法研究
- いのした おさむ
井下 理 慶応大学総合政策学部・教授 京都大学・非常勤講師
社会心理学 コミュニケーション論

【後期：ライフサイクルと教育B】

- たなかつねみ
田中每実 京都大学高等教育研究開発推進センター・教授
教育哲学 人間形成論 大学教授法研究

3. 授業の評価

(1) 評価の方法

【評価の対象】

毎回の「何でも帳」の記述、授業期間中のミニレポート、学期末のレポート等によって総合的に判断します。

【評価方法】

授業担当者が合議のうえ、決定します。

(2) 評価に関する注意

この授業に関して、「授業に出席してレポートを書けばAが保証される」といった、誤った情報が流れています。この授業は、決して「楽勝科目」などではありません。

4. 受講に関するその他の注意

(1) 前期・後期の両方の受講を推奨

- セメスター制のため、前期「ライフサイクルと教育A」と後期「ライフサイクルと教育B」がありますが、一年を通じて両方を受講することを推奨します。受講するかどうかの決定に関しては、そのことも考慮しておいてください。
- 後期「ライフサイクルと教育B」は、前期「ライフサイクルと教育A」で単位を取得していなければ、受講できません。

1.2 平成15年度年間授業一覧

授業日		授 業 内 容	メディア	授業形態
大 山	4月14日 第1回	オリエンテーション	ガイダンスプリント、 受講希望レポート	講義
大 山 泰 宏	4月21日 (第2回)	わたしたちの時代のテーマ 学生自身に、自分たちにとって relevant なテーマを、 ディスカッションにて決めさせる。	受講希望レポート全員 分、授業評価	講義 ディスカッション
	4月28日 (第3回)	時代のテーマを考える ディスカッションに関するオリエンテーション。 「何を話し合いたいのか」に関するディスカッション。	何でも帳コピー、資料プ リント、パワーポイン ト、授業評価	講義 ディスカッション
	5月12日 (第4回)	時代のテーマを伝える 各グループのテーマ公表。 グループディスカッション。	何でも帳コピー、 授業評価	ディスカッション
	5月19日 (第5回)	時代のテーマをふたたび 各グループから2名ずつ代表が出て、全体でのディスカ ッションを行う。	何でも帳コピー、 授業評価	ディスカッション 机配置：二重四角形
松 下 佳 代	5月26日 (第6回)	大学生の「学力低下」? 学力テストの調査対象体験。「学力」論をめぐる現在の状 況についての講義。グループディスカッションの準備。	何でも帳コピー、学力テ スト問題、資料プリン ト、授業評価	講義 ディスカッション
	6月2日 (第7回)	「学力低下」は問題か? テーマと関連した資料の説明。グループディスカッション を行い、テーマを決定。	何でも帳コピー、資料プ リント、授業評価	講義、 ディスカッション
	6月9日 (第8回)	「学力」は自分のものか? 各グループ内で各自のリサーチ結果を報告。 プレゼンテーションとクラスディスカッションに向けてグ ループの意見をまとめる。	何でも帳コピー、資料プ リント、授業評価	講義、 ディスカッション
	6月16日 (第9回)	「学力」を超えて 簡単な講義を行った後、各グループ内で各自のリサーチ結 果を報告。テーマを構造化し、グループの意見をまとめる。	何でも帳コピー、資料プ リント、授業評価	講義、 ディスカッション
	6月23日 (第10回)	まとめ グループごとにプレゼンテーションを行い、クラスディス カッション。授業のまとめ。	何でも帳コピー、資料プ リント、授業評価	講義、 ディスカッション 机配置：五角形
井 下 理	6月30日 (第11回)	役割期待 1 授業についてのオリエンテーション。自己紹介。ビデオ上映。 グループディスカッション。クラスディスカッション。	資料プリント、 ディスカッション感想コ メント・シート、OHP、 ビデオ	講義、ビデオ、 ディスカッション 机配置：五角形他
	7月7日 (第12回)	役割期待 2 前回の授業についてのフィードバック。ビデオ上映。講義。 役割演技法の解説。グループディスカッション。クラスデ ィスカッション（ロープレイ+本音トーク）	ディスカッション感想コ メント・シート、班別グ ループの座席シート、資 料プリント、OHP、ビデ オ	講義 ディスカッション 机配置：五角形他
大 山 ・ 松 下	7月14日 (第13回)	前期を振り返って 終講レポートの説明。	終講レポートプリント	講義

授業日	授 業 内 容	メディア	授業形態
10月6日 (第14回)	学生による討論の構成と教師の介入 一現況と課題の設定 学生全員が各自1分程度、参加動機と討論したい内容を説明。 グループ分け。討論テーマについての討論。ML説明。	レポートのコピー、 資料プリント	講義 ディスカッション
10月20日 (第15回)	資料に基づく学生の討論とこれに関連する講義の試み(1) 資料検索サイトについての説明。第1グループ発表。発表 に関するグループ討論。討論結果についての各グループ発表。 発表グループの応答。授業者のコメント。	何でも帳コピー、資料プ リント	講義、 ディスカッション 机配置：コの字
10月27日 (第16回)	資料に基づく学生の討論とこれに関連する講義の試み(2) 資料検索サイトについてのデモ(松下)。 第2グループ発表。発表に関するグループ討論。討論結果 について各グループ発表。発表グループの応答。授業者の コメント。	何でも帳コピー、資料プ リント	講義、 ディスカッション 机配置：コの字
11月10日 (第17回)	資料に基づく学生の討論とこれに関連する講義の試み(3) 第3グループ発表。発表に関するグループ討論。討論結果 について各グループ発表。発表グループの応答。授業者の コメント。コンピュータ使用状況についてのアンケート実施。	何でも帳コピー、資料プ リント	講義、 ディスカッション 机配置：コの字
11月17日 (第18回)	資料に基づく学生の討論とこれに関連する講義の試み(4) 授業者の講義。大山、松下によるこれまでの学生発表に対 する意見・感想、田中による補足。学生との質疑討論。授 業評価(early evaluation)実施。BBS説明。	何でも帳コピー、資料プ リント、授業評価	講義、 ディスカッション 机配置：コの字
12月1日 (第19回)	資料に基づく学生の討論とこれに関連する講義の試み(5) 「何でも帳」、授業評価、BBSについてのコメント。今後 どういうテーマを議論したいか、ということについてのグ ループ討論。グループ討論の内容報告。共通テーマについ ての田中からの提案。各グループで共通テーマについて議論。 BBSへの全員書き込み指示。	何でも帳とBBSのコピー	講義、 ディスカッション 机配置：コの字
12月8日 (第20回)	資料に基づく学生の討論とこれに関連する講義の試み(6) 授業者よりこれからの授業についての提案。その提案につ いて各グループで討論。討論を受けての全体討論。今後の 討論テーマについて各グループで討論。各グループ経過報告。 全体討論。授業者コメント。	何でも帳とBBSのコピー、 資料プリント	講義、 ディスカッション 机配置：コの字
12月15日 (第21回)	資料に基づく学生の討論とこれに関連する講義の試み(7) 各グループの現状確認、グループ討論。グループ討論に関 する報告と質疑。	何でも帳とBBSのコピー	講義、 ディスカッション 机配置：川の字
12月22日 (第22回)	資料に基づく学生の討論とこれに関連する講義の試み(8) 順次、グループ発表。次週までにBBSに各自、各班の発表 についての意見を書き込むよう、指示。	何でも帳とBBSのコピー	講義、 ディスカッション 机配置：コの字
1月19日 (第23回)	資料に基づく学生の討論とこれに関連する講義の試み(9) 前回の発表を受けての授業者の講義。大山、松下、井下 によるコメント。レポート、授業評価についての説明。	何でも帳とBBSのコピー、 資料プリント、授業評価	講義、 ディスカッション 机配置：コの字

2 公開授業の参加者数

2.1 履修者・単位取得者数

前期

学部	教育	経済	総合人間	工	農	理	文	法	計
履修者数	13	2	1	10	1	1	1	1	30
単位取得者数	12	1	1	8	0	1	1	0	24

回生	1	2	3	4	計
履修者数	24	1	3	2	30
単位取得者数	22	1	1	0	24

後期

学部	教育	経済	総合人間	工	理	文	計
履修者数	10	1	1	7	1	1	21

回生	1	2	3	計
履修者数	18	1	2	21

*後期分については、叢書作成時点でまだ単位取得者数が確定していない

2.2 授業検討会参加者数

表1 各回の参加者数の推移

授業日	学内	学外	合計
1 4月14日	8	0	8
2 4月21日	8	0	8
3 4月28日	6	1	7
4 5月12日	9	0	9
5 5月19日	7	0	7
6 5月26日	9	0	9
7 6月2日	10	0	10
8 6月9日	10	1	11
9 6月16日	8	3	11
10 6月23日	9	1	10
11 6月30日	10	1	11
12 7月7日	10	3	13
13 7月14日	9	0	9
14 10月6日	9	0	9
15 10月20日	10	0	10
16 10月27日	8	1	9
17 11月10日	10	0	10
18 11月17日	10	4	14
19 12月1日	10	1	11
20 12月8日	10	3	13
21 12月15日	9	0	9
22 12月22日	8	0	8
23 1月19日	7	1	8
合計	204	20	224

*学内はすべてセンタースタッフ

表2 参加者の内訳

	学内	学外	合計
延べ参加者数	204	20	224
参加者数	10	17	27
新規参加者数	2	14	16

学内	学外
田中	井下 (慶應大)
松下	吉田 (和歌山大)
大山	清水 (千葉大)
溝上	後藤 (名城大) ★
神藤	斎藤 (名城大) ★
藤田	近藤 (名城大) ★
杉原	日比野 (京都新聞社) ★
笹村	伊澤 (内田洋行) ★
王★	伊藤 (内田洋行) ★
篠崎★	宮台 (内田洋行) ★
	高垣 (鎌倉女子大) ★
	福田 (鎌倉女子大) ★
	近未 (川崎医療大) ★
	橋本 (岡山大) ★
	佐野 (筑波大) ★
	山本 (筑波大) ★
	田実 (北星学園大) ★

★印は新規参加者

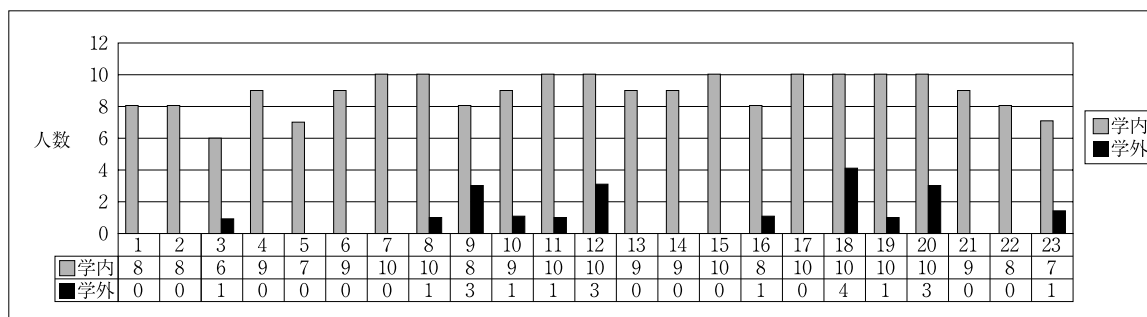


図1 各回の参加者数の推移

3 学生による授業評価

3.1 「授業に関するアンケート調査」結果

本調査は「ライフサイクルと教育」の後期最後の授業（2004年1月19日）内において、受講者全員を対象にして実施されたものである（アンケート項目については、資料1参照）。

1. 授業への出席について

前期・後期合わせた授業への出席回数（初回のオリエンテーションは除く）の学生16名の出席回数はTable 1に示した通りである。全22回とも出席したと回答した者は43.8%（16名中7名）であった。

Table 1 出席回数		
	度数	パーセント
16	1	6.3
17	1	6.3
18	1	6.3
19	1	6.3
20	1	6.3
21	3	18.8
22	7	43.8
合計	15	93.8
無回答	1	6.3
	16	100.0

この出席率を他の講義と比較した結果は以下の通りである（Table 2）。「かなり良い」と回答した者が75.0%（16名中12名）であり、「やや悪い」、「かなり悪い」と回答した者はゼロであった。

Table 2 他の講義と比較した出席率		
	度数	パーセント
かなり良い	12	75.0
やや良い	2	12.5
ほぼ同じ	2	12.5
合計	16	100.0

また、欠席があった者についてのみ、その理由を複数回答で尋ねたところ以下の通りであった（Table 3）。「病气や怪我」、「なんとなく出る気がしなかった」という欠席理由が目立つ結果であった。なお、「その他」の具体的内容は「体力的に疲れていた」というものであった。

Table 3 欠席理由

	度数	パーセント (Response)	パーセント (Cases)
他のテストや実習	1	6.7	11.1
サークルやクラブ	1	6.7	11.1
アルバイトや旅行	0	0.0	0.0
病気や怪我	4	26.7	44.4
寝坊	1	6.7	11.1
授業がつまらない	0	0.0	0.0
なんとなく	3	20.0	33.3
心理的につらい	2	13.3	22.2
途中で入りづらい	1	6.7	11.1
忌引や法事	1	6.7	11.1
その他	1	6.7	11.1
合計	15	100.0	166.7

2. 授業への参加意欲について

「かなり意欲をもって取り組んだ。」と回答した者が68.8%（16名中11名）を占め、一方、「やや意欲は低かった。」「かなり意欲は低かった。」と回答した者はゼロであった（Table 4）。

Table 4 授業への参加意欲

	度数	パーセント
かなり意欲	11	68.8
ふつう以上の意欲	3	18.8
ふつう	2	12.5
合計	16	100.0

3. 年間の授業全体の印象

評価は5件法（「全く当てはまらない」から「よくあてはまる」まで）によって行われた。項目2、6、7、8において回答の分布に偏りが見られ、項目3、5において回答の分布に散らばりが見られた（Table 5）。

Table 5 基本統計量

項目	回答数		平均値	分散	最小値	最大値
	回答	無回答				
1	15	1	3.40	.54	2	4
2	16	0	4.75	.20	4	5
3	15	1	4.13	.98	2	5
4	16	0	4.38	.52	3	5
5	16	0	3.44	.93	2	5
6	16	0	4.38	.25	4	5
7	16	0	4.19	.30	3	5
8	16	0	4.56	.26	4	5
9	16	0	4.63	.65	2	5
10	16	0	4.25	.87	2	5

項目 1：「授業は体系的に進められた。」

回答が中間的評価に比較的に集まった結果であった。ディスカッション形式の授業であったために、講義形式のような「体系」を学生があまり実感できなかった可能性が考えられるかもしれない。

Table 5-1 項目 1		
	度数	パーセント
あまりあてはまらない	2	12.5
どちらでもない	5	31.3
ややあてはまる	8	50.0
無回答	1	6.3
合計	16	100.0

項目 2：「授業を通して、新しい発見や驚きがあった。」

全体の75.0%が「よくあてはまる」と回答、残りの25.0%も「ややあてはまる」と回答しており、回答が肯定的な評価に集中した。学生の主体的な関わりが求められる授業であったことが、こうした結果に結びついたのかもしれない。

Table 5-2 項目 2		
	度数	パーセント
ややあてはまる	4	25.0
よくあてはまる	12	75.0
合計	16	100.0

項目 3：「新しい知識や技術を獲得することができた。」

全体的に肯定的な評価ではあったが、回答にばらつきが見られた。班活動やディスカッションでそれぞれの学生がどのような関わり方をしているのかということも影響として考えられるかもしれない。

Table 5-3 項目 3		
	度数	パーセント
あまりあてはまらない	1	6.3
どちらでもない	3	18.8
ややあてはまる	4	25.0
よくあてはまる	7	43.8
無回答	1	6.3
合計	16	100.0

項目 4：「自分や他人に対する理解が深まった。」

肯定的な回答に比較的に集中していた。授業の形態が班活動やディスカッションを取り入れたものであったこと、また、全員分の「何でも帳」やBBSでのやりとりを授業でプリントにして配布したことがこのような印象につながったのではないかと考えられる。

Table 5-4 項目 4

	度数	パーセント
どちらでもない	2	12.5
ややあてはまる	6	37.5
よくあてはまる	8	50.0
合計	16	100.0

項目 5：「全体的に内容が難しかった。」

この項目は回答に比較的ばらつきが見られた。授業では比較的身近なテーマが扱われたが、論理的に議論を組み立てていく作業等が1回生を中心とした受講生には困難なことであったのかもしれない。

Table 5-5 項目 5

	度数	パーセント
あまりあてはまらない	3	18.8
どちらでもない	5	31.3
ややあてはまる	6	37.5
よくあてはまる	2	12.5
合計	16	100.0

項目 6：「興味の持てる内容が多かった。」

この項目については肯定的な評価に回答が集中していた。この結果については、基本的に学生自身がテーマを設定するという授業形態が大きく関係しているのではないかと考えられる。

Table 5-6 項目 6

	度数	パーセント
ややあてはまる	10	62.5
よくあてはまる	6	37.5
合計	16	100.0

項目 7：「自分たちの意見や要望が、授業の運営に取り入れられていた。」

「ややあてはまる」に全体の7割近くの回答が集中していた。ディスカッションの場、「何でも帳」、BBSなどによって、常に何らかの形で学生との相互コミュニケーションを試みようとしてきたことが影響した結果かもしれない。

Table 5-7 項目 7

	度数	パーセント
どちらでもない	1	6.3
ややあてはまる	11	68.8
よくあてはまる	4	25.0
合計	16	100.0

項目 8：「授業者の熱意が感じられた。」

回答が「よくあてはまる」と「ややあてはまる」のみに集中しており、受講者が肯定的に受けとめていたことが示唆される。

Table 5-8 項目 8

	度数	パーセント
ややあてはまる	7	43.8
よくあてはまる	9	56.3
合計	16	100.0

項目 9：「この授業を履修してよかった。」

75%の学生が「よくあてはまる」と回答し、全体的には肯定的な評価であった。なお、「あまりあてはまらない」と回答した 1 名については、他の項目への回答などからレポートや班活動をかなり負担に感じていたことが示唆された。

Table 5-9 項目 9

	度数	パーセント
あまりあてはまらない	1	6.3
ややあてはまる	3	18.8
よくあてはまる	12	75.0
合計	16	100.0

項目10：「後輩に、この授業の履修をすすめたい。」

回答に散らばりは見られたが、全体的には肯定的な評価であった。なお、「あまりあてはまらない」と回答した 1 名は項目 9 においても「あまりあてはまらない」と回答しており、項目10への回答は、自分自身の満足と密接に関係していることが示唆される結果であった。

Table 5-10 項目10

	度数	パーセント
あまりあてはまらない	1	6.3
どちらでもない	2	12.5
ややあてはまる	5	31.3
よくあてはまる	8	50.0
合計	16	100.0

4. 授業において魅力的であったこと

「この授業で、魅力的だったものを 3 つ挙げてください。」という質問項目に対して、自由記述により回答を求めたところ、下記の通りであった。

学生、教官との相互コミュニケーション、そしてそれを通じて自分自身の考えを振り返る機会をもつことができたという点への言及が目立った。

教室環境

- ・ 楽友会館。
- ・ 場所（楽友会館）。
- ・ 教室（特にイスとか）が魅力的だった。

仲間

- ・ 受講者の顔ぶれ。
- ・ 少人数で、学生同士の距離が近く、他学部の人と仲良くなれる。

- ・ゼミみたいに班の人と仲良くなれたこと。
- ・授業時間外での協力によって、人間関係が深まり、協力できたこと。
- ・友達の輪が広がったこと。

仲間、先生とのコミュニケーション、またそれを通じた気づき

- ・言葉のやりとりができた。言葉のやりとりを通じて自分の言葉を振り返るいいチャンスとなった。
- ・先生との距離も近く、意見が言いやすい。いろいろな意見が聞けて自分の言いたいことが言える。
- ・共通のテーマでディスカッションできたこと。他人の意見や、自分の意見に対する意見が聞けること。同年代の人の生の声が聞けたこと。
- ・自分の考えたことに対して、その場で同世代からの意見、先生からの意見など、いろいろな視点からの意見が与えられたこと。自分の伝えたい「何か」を何とかして伝えないといけないというプレッシャー、もどかしさ。自分の「言葉」に目が向くようになったこと。
- ・先生と生徒の距離が近い。
- ・今まで自分たちの受けてきた教育と今、大学で必要なことについて考えられた。自分の意見をまとめ、伝えることの難しさを学べました。興味・関心のあることを調べ話し合うことの楽しさを再確認できました。
- ・先生方、学生がみんな自分の言葉を使って誠実に何かを伝えたり何かを得ようとしていたりしていたこと。ディスカッションで生徒同士が対等に考えを述べられたこと。
- ・様々なテーマについて熱い議論が交わせたこと。自分の意見（プレゼンを含め）に対して、真剣な意見が返ってきて、自分を高めることができたこと。
- ・考察する時間が多くもてたこと。身近なことの他者の意見が聞けたこと。
- ・討論が意欲的にできる。BBSで教室外での討論ができる。BBSでみんなの意見の細かいところが見ることができ

授業形態・方法

- ・他大学の先生の話聞くことができた。
- ・プレゼンする場ができたこと。
- ・ディスカッション形式。発表。田中毎実先生。
- ・少人数授業。否応なしに参加させられる状況。身近なテーマ。
- ・何でも帳（ペンネームを含め）。ディスカッション。
- ・対象が他よりも自分に近かった。
- ・少人数だったこと。
- ・先生方が完全に脇役に徹するという、一番難しいことをやってくれたこと。
- ・授業での生徒の占める割合の高さ。テーマの自由性。他と違う特色。

その他

- ・単位とりやすそう。

5. 授業で改善すべき点

「この授業で、改善すべきだと思う点を挙げてください。」という質問項目に対して、自由記述により回答を求めたところ、下記の通りであった。

楽友会館という建物を魅力とする学生がいる一方で、建物内部の冷暖房設備については改善すべき点としてあげた学生が何人か見られた。

ディスカッションの際の机配置については、前期、後期の授業を通して様々な形を試みたが、いずれにも一長一短があった。今後の課題である。

また、学生が主体的に関わる授業の形態については魅力としてもあげられていたが、それに伴う負担の大きさや時間的な制約等を改善点としてあげた学生もいた。

環境（冷暖房設備）

- ・部屋が夏、暑すぎ、冬、寒すぎます。
- ・冬、寒かった。
- ・寒い。
- ・冷暖房設備（寒い）。

環境（机配置）

- ・イスの配置（コの字形の机配置の真ん中のスペース）。
- ・イスの並べ方（先生の前の意味のない空間が気になる）。

環境（時間）

- ・改善すべきかどうかはともかく、週25コマ中の1コマとするには、授業自体にも準備にも時間的にきついものがありました。
- ・講義の時間を2コマ連続とかにしてほしい。
- ・時間内に終わるべき。
- ・時間不足の解消。

環境（その他）

- ・ビデオが気になる。
- ・喋る人はつらいと思うけど、マイクを使うとやはり声がこもるので、声を張って発表してもらいたい（したい）と思った。
- ・（楽友会館までの距離が）ちょっと遠い。

授業の方法

- ・すぐに伝えられる情報検索の手法などは、早めに伝えた方がよいと思う。
- ・映像機器をもっと使おう。
- ・どんなことを目標に授業を進めていくのかを最初に説明してほしいと思います。
- ・けっこう大変（話し合い、レポート）。
- ・班全員でというとし、自分一人分の責任が減ってしまうように感じました。
- ・相互対話を増やすこと。

【資料1 「授業に関するアンケート調査」調査票】

2003年度 ライフサイクルと教育 A. B 「授業に関するアンケート調査」

この調査は、今年度の「ライフサイクルと教育」の特徴を明らかにするものです。調査の結果は、来年度の授業計画に活かされるとともに、授業研究のデータとして使用されます。みなさんの回答は統計にのみ使用され、個人に関する情報として使用することはありません。

回答の内容で、成績が左右されることは、一切ありません。来年度以降受講する後輩学友のために、責任のある調査ですので、感じたままを率直に答えてください。

() 学部 () 科 (氏名)

1. この授業への、あなたの出席回数は、どのくらいでしたか。

() 回／全22回 (初回オリエンテーションは除く)

2. あなたが受講している他の講義（ゼミや実習は除く）と比べて、出席率はどうですか。あてはまる数字ひとつに○をつけてください。

1. かなり良い
2. やや良い
3. ほぼ同じ
4. やや悪い
5. かなり悪い

3. 欠席のあった方におたずねします。欠席した理由はどれですか。当てはまるすべての数字に○をつけてください。

- | | | | |
|------------------------|----------------------|-------|-------------|
| 1. 他の科目でのテストや実習 | 2. サークルやクラブの試合や発表会など | | |
| 3. アルバイトや旅行 | 4. 病気や怪我 | 5. 寝坊 | 6. 授業がつまらない |
| 7. なんとなく出る気がしなかった | 8. 心理的につらかった | | |
| 9. 開始時間に遅れて途中では入りづらかった | 10. 忌引や法事 | | |
| 11. その他（具体的に | | |) |

4. あなたは、この授業にどのくらい意欲をもって取り組みましたか？あてはまる数字ひとつに○をつけてください。

1. かなり意欲をもって取り組んだ。
2. ふつう以上の意欲をもって取り組んだ。
3. ふつう
4. やや意欲は低かった。
5. かなり意欲が低かった。

5. この授業について、次の項目はどの程度あてはまりますか？ あてはまる数字に○をつけてください。（各回で差はあると思いますが、年間の授業全体の印象でお答えください）

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらでもない	ややあてはまる	よくあてはまる
1. 授業は体系的に進められた。	1	2	3	4	5
2. 授業を通して、新しい発見や驚きがあった。	1	2	3	4	5
3. 新しい知識や技術を獲得することができた。	1	2	3	4	5
4. 自分や他人に対する理解が深まった。	1	2	3	4	5
5. 全体的に内容が難しかった。	1	2	3	4	5
6. 興味の持てる内容が多かった。	1	2	3	4	5
7. 自分たちの意見や要望が、 授業の運営に取り入れられていた。	1	2	3	4	5
8. 授業者の熱意が感じられた。	1	2	3	4	5
9. この授業を履修してよかった。	1	2	3	4	5
10. 後輩に、この授業の履修をすすめたい。	1	2	3	4	5

6. この授業で、魅力的だったものを3つ挙げてください。

7. この授業で、改善すべきだと思う点を挙げてください。

ありがとうございました。結果は、来年度の授業設計に活用させていただきます。